

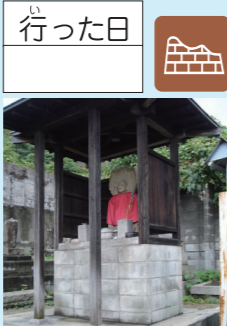
かまだじんじゃ 蒲田神社

おうじんてんのう むかし はりま ぶつ 応神天皇が、昔、播磨を訪れたことがありまし
た。その後、天皇の乗り物が止まった場所の
あと たでもの てんのう で たた 跡に建物をたて、天皇のお出ましを称えまし
た。それが蒲田神社の始まりといわれています。
「八幡」という地区の名前は、おまつりして
はちまんおおかみ なまえ う いる「八幡大神」の名前から生まれました。



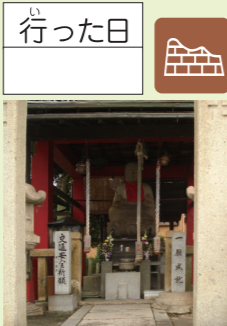
けいろうざんまんじょうじ すいてい ち 慶雲山満乗寺推定地

けいろうざんまんじょうじ しやしゃんえんまうじ べつてん 慶雲山満乗寺は、書写山円教寺の別院でし
たが、戦国時代の戦で壊されてしまったとい
われています。今では、則直字上の坊という名
前だけが残っていて、当時の本尊といわれて
いる石仏が専修寺の境内にあります。



さい し ぞうせん 才の地蔵尊

かち ある げんたつ 各地をめくり歩いていた玄達というお坊さん
が、天保2年(1831)に3年かかって建てまし
た。高さが約3mもある大型の地蔵菩薩です。
ししく ししく た しおいちむら たかさごし 石工(石を組み立てる人)は塩市村(高砂市)
の庫本伊兵衛という人です。毎年8月24日に
は、地蔵盆が盛大に行われています。



しもの こふんくん 下野古墳群

このあたりには、古墳が数十基も集まっていま
す。古墳時代の終わりごろ(6世紀)のもの
で、中には石室の中に石の棺おけが残ってい
るものもあります。また、土の盛り上がった
場所もいくつかあって、崩れてしまった古墳の
跡だとおもわれます。



おおしやう や いづかけ 大庄屋飯塚家

かまだ くみおおしやう や いづかけ てんもん 蒲田組大庄屋の飯塚家では、天文15年(1546)
いづつかく さ えもん よ べしやうき けいりうたいかん に飯塚六左衛門が余部庄左右代官をつと
め、秀吉の中国攻めや英賀城攻略にも力を
か ひでよし けいこく せ あ が けいこうりく けい
を貸しました。その後、江戸時代から明治維新
まで大庄屋となりました。土塀と石垣の美しさ
は見事なものです。



34 **八幡地区**

この地区は、真ん中に夢前川が
流れ、山にはさまれた自然豊かな
地区で、古くから人が住んでいた
ようですね。遺跡や古墳について
調べてみましょう。



調べたこと、
分かったことを
書いてみよう!



たかばけじ ぞうせん 高畑地蔵尊「出逢地蔵」

むかし じぞうどう しま ぼし 夢前川が昔の地蔵堂は今の場所より南側にあり、「出逢い
の松」とよばれる大きな松の木があって、西国へつ
ながる街道の目印になっていましたが、昭和20年
(1945)に枯れてしまいました。また、このあたりは
せんごく せんじやう 戦国時代に戦場であったと思われ、境内には戦死
した武士の墓、五輪塔がたくさん残っています。



ち ぞうせん 稚児ヶ淵伝説の地

かつては夢前川が蒲田を貫いて流れていて、東の
山並みに近づくところはとても深い川になっていま
した。地域の人は、「ちがら淵」、「稚児ヶ淵」とよ
んでいました。蒲田にあった長谷山蒲田寺のお坊さん
が、菅原白屋村(西蒲田)の娘と一いっしょに身を投
げた悲しい伝説から、「稚児ヶ淵」とよばれました。



にしかまだてんまじんじゃ 西蒲田天満神社

えいしやうねんかん 永享年間(1429~41)、菅原道真をまつた
のが始まりとされています。境内にはご神木
であるクスノキがあり、市の保存樹に指定さ
れています。明治21年(1888)に菅野孫次郎
がおさめた算額の絵馬があります。昭和60年
(1985)に神社の建物が建て直されました。



むろつ みちどうひやう 室津道道標・高札場跡

むろつ みちどうひやう 室津道は山陽道から分かれた道で、町坪〜才〜
小坂を通過したつづきの市室津までつづく道です。
天保9年(1838)に建てられた道しるべには
「左あほし、むろつ、右たつの、びぜん」と彫られ
ています。また、昔の屋台蔵の近くには、高札場
(木の板でできた掲示板)があったようです。



ゆめさきがわこうすいぼう 夢前川洪水防護堤防

ちいさき ひとびと 地域のひと々に「暴れ川」といわれられて恐れられ
た夢前川。洪水から村を守った堤防がいろん
な場所にありましたが、校区の中ではここだけ
に残っています。

